

□8月4日礼拝説教(短縮版)「神の熱意が平和をなしとげる」イザヤ書9:1～6 隅野徹牧師

私が今回皆さんに注目して読んでいただきたいのは6節の最後、「万軍の主の熱意がこれを成し遂げる」という言葉です。この言葉が指し示すように、平和は人間の努力によってつくられるものではなく、主なる神の熱意によって与えられ、成し遂げられることであるものであると、聖書は教えます。

人間が一生懸命考えて良い状態の社会を作り出そうと努力しても、結局争いや戦いは消えない…。それは情報社会となり、科学技術が進み、政治学や社会学も進歩したはずのこの21世紀で戦争が起こり、しかも泥沼化しているという現状から明らかになったと私は思います。

神がともにおられること抜きに真の平和はないことを、聖書は確かなこととして教えているのです。創世記2章の、人間が罪に堕ちる前のエデンの園は、神と人、そしてアダムとエバの関係に表れている隣人との関係も平和でしたし、動物や自然との調和がとれていたことが表されています。しかし人間が神に背くという罪を犯した創世記3章以降で、もともとあった平和が次々とくずれていく様子が聖書には記されています。これは創世記だけでなく、旧約聖書のイスラエルの歴史の記録全体から理解できることです。

しかし平和から遠い存在となった人間を見捨てられないのが、主なる神の熱意です。神は人間を愛し大切に思う故に、自らの側から平和の使者を送られたのです。それがクリスマスに人となってこの世にきてくださった、イエス・キリストに他なりません。神から遠ざかっていき、平和を崩していった罪深い人間たちを救うため、愛する独り子イエス・キリストをお送りくださった。まさにこれ以上になり熱意によって、私たちの間に平和をつくって下さったのです。

聖書が示す平和からはほど遠い現在の世界の状況ですが、その中であって神の熱意によってイエス・キリストによる平和は成し遂げられる、という聖書の約束を信じて歩んでまいりましょう。(終)